東京医科歯科大学
歯学部附属病院通信　第６号
平成 25 年 12 月発行

1. 先進医療について
先進医療とは…

先進医療とは、厚生労働大臣が定める高度な医療技術であり、未だ保険診療の対象に至らない先進的な医療技術等と保険診療との併用を認めたものとなります。各先進医療には、適応症があり、該当する場合に先進医療を受けることができます。

医療費は、先進医療に係る技術料は自己負担となり、通常の診療と共通する部分は公的医療保険の適用となります。

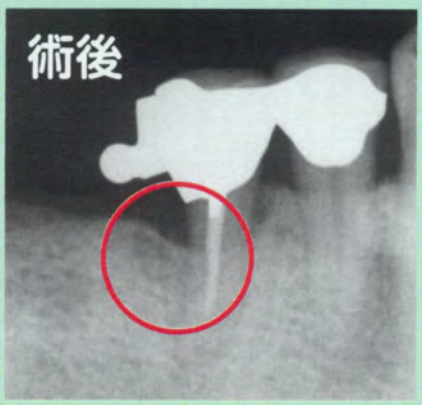
先進医療に係る技術料	通常の診療と共通する部分	
全額自己負担分	一部自己負担分 （公的医療保険適用部分の３割※）	公的医療保険による給付分 （公的医療保険適用部分の７割）

※一部自己負担の割合は、年齢等によって変更になる場合があります。

本号では、2007年10月より実施している「歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法」についてご案内していきます。

当院で実施している先進医療

・Ｘ線 CT 画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術
・**歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法**



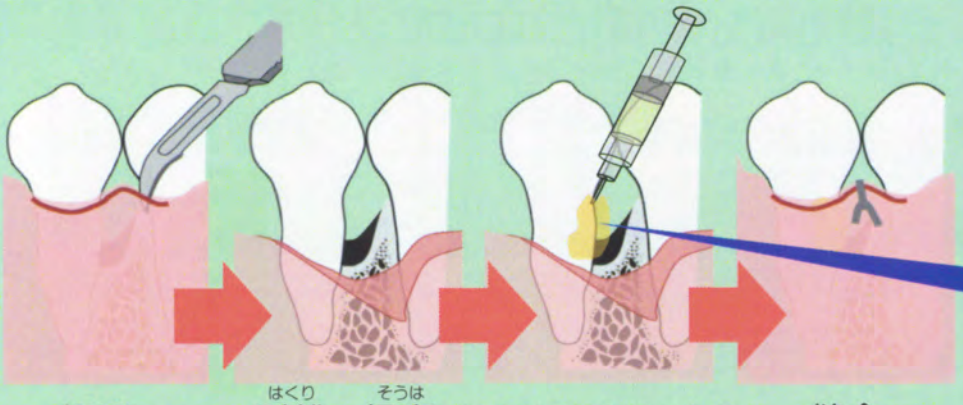
編集発行／東京医科歯科大学歯学部附属病院 地域歯科医療連携センター広報誌編集委員会
礪波健一編集長、長浦真由美編集委員、宮本洋子編集委員、小泉忠行編集委員

歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法

歯周病は、歯の表面にプラークや歯石が沈着することで歯を支えている歯周組織が破壊される炎症性疾患です。重度の歯周病では、歯周外科手術によりプラークや歯石を取り除き炎症を抑えますが、失われた歯周組織を取り戻すことはできません。

本法は、歯周組織の再生を促す治療法であり、エナメルマトリックスタンパクを使用します。

通常の歯周外科手術と同様の方法で歯肉を切開・剥離(はくり)し、患部の掻爬(そうは)・清掃を行います。これらの後、エナメルマトリックスタンパクを歯根表面に塗布し、タンパク質を歯根表面に沈着させることで歯周組織の再生を促します。最後に切開した歯肉を縫合します。



切開　剥離(はくり)・掻爬(そうは)　エナメルマトリックスタンパクを塗布　縫合

歯周組織が破壊された部位において、歯周組織形成に関与するタンパク質「エナメルマトリックスタンパク」を用いることで歯周組織再生を誘導します

治療時の注意事項

- 治療には歯周外科手術を伴います。従って、十分に管理されていない全身疾患のある方、局所麻酔が使用できない方など歯周外科手術を行えない場合は使用できません。
- 適応症がありますので、歯周病に罹患したすべての方に使用できるわけではありません。ご希望される場合は、歯周病外来の歯科医師にご相談下さい。

歯周病外来診療科長　**和泉 雄一**

2. 診療科紹介～薬剤部～

薬剤部では、外来ならびに入院患者さんのお薬を調剤するだけではなく、お薬に関するさまざまな業務を行っています。調剤前の薬剤師による処方監査もその一つです。外来処方では過去の処方歴をチェックして処方監査を行い、入院処方では処方監査と共に、薬剤師が薬剤管理指導記録を作成してベッドサイドでのお薬の服薬説明やお薬に関する相談、副作用チェックなどの業務を行っています。また、入院時に持参されたお薬は薬剤師が確認して歯科医師に情報提供し、入院中のお薬との併用に薬学的観点から注意を払っています。

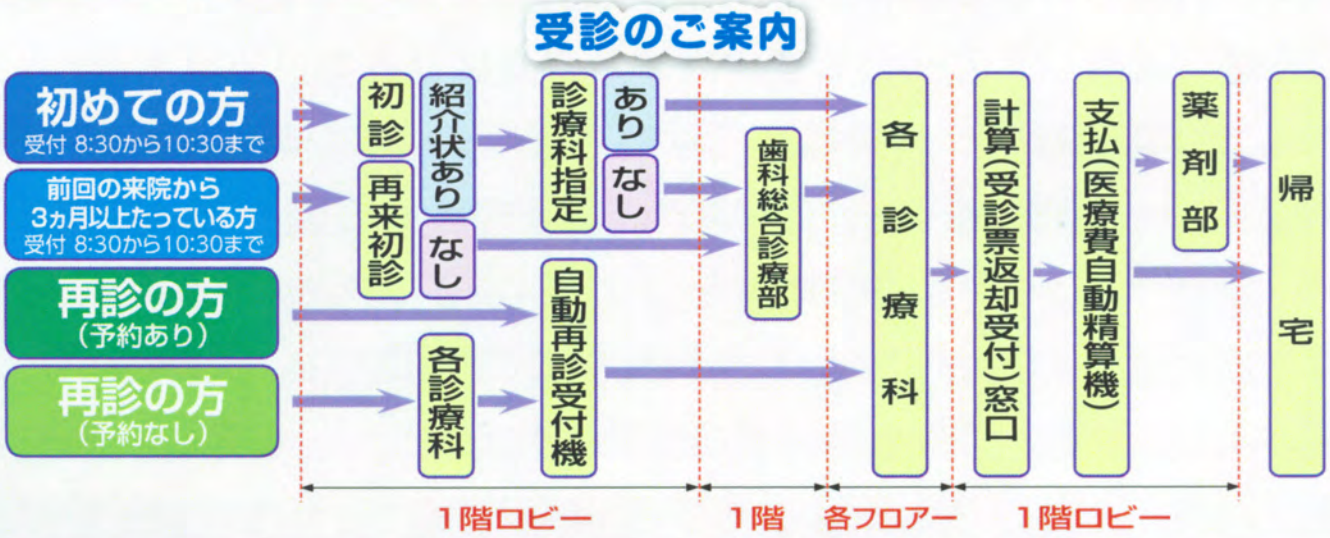
また、抗がん剤の注射薬はすべて薬剤師が安全で清潔な環境下で無菌調製を行い病棟に払い出しをしています。さらに、大学病院ならではの院内製剤も口腔用軟膏を中心に調製し、口内炎などの有効な治療薬として患者さんに処方されています。

当院では医療安全の観点により、調剤からお薬をお渡しする過程までを調剤レコーダーによって記録しています。薬剤の形状や数量を画像で記録しているのでお薬の内容確認がすぐにでき、患者さんがお薬を安心してお使いいただけるよう細心の注意を払っています。

薬剤部長　**原澤 秀樹**

3. 病院案内

◎受付時間　初診/8:30～10:30　再診/8:30～15:30
◎休 診 日　土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



当院各専門外来では、各分野の専門的な治療を希望される患者さんが多く来院されます。そのため、初診で来院された場合は、担当医が決まり、治療が始まるまで一定期間お待ち頂く場合があります。

職員一同、安全・安心の医療を提供できるよう努力しておりますので、患者の皆様にはどうかご理解、ご協力頂けますようお願い致します。

＜歯科放射線外来改修のお知らせ＞

現在、地下1階の歯科放射線外来では、大規模な改修工事が行なわれています。この工事は、すべてのX線写真を診療室のモニターで直接見られるようにすることを目的としたもので、平成26年3月まで続く予定です。

工事期間中は、皆様にご不便をおかけすることもあるかと存じますが、ご理解のほどどうぞよろしくお願い致します。

歯科放射線外来診療科長　倉林 亨